



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2022年(令和4年)10月15日号 No.1905

目次

■ ウクライナ侵攻後のロシアとカザフスタン —「対立」の構図の分析—	1
■ 統計速報 2022年1～9月のロシアのブランド別乗用車販売台数／9	9
■ エトセトラ ロシア情報提供セミナー「現況下のロシアにおける外資系企業の選択肢」／10 ROTOBO月例報告会「EUの対露経済制裁とグローバル・ガバナンスの変容可能性」／10 「ロシア進出企業情報提供ポータル」の立ち上げ／10	10
■ トピックス	11
ロシア外為市場で対人民元取引高がドル超え／11	
ロシアから国外への違法現金持ち出しが急増／11	
サハリン1も新会社設立／11	
日本政府が追加対露制裁措置を発表／11	
日産自動車がロシア市場から撤退／12	
ロシア産ガスの新しい輸出拠点にトルコを提案／12	

ウクライナ侵攻後のロシアとカザフスタン —「対立」の構図の分析—

はじめに

ウクライナ侵攻以降、ロシアとカザフスタンの関係に注目が集まっている。世界最長の陸の国境を共有する両国は、ソ連崩壊以降も、良好な関係を維持してきた。ロシアがウクライナやジョージアなど隣国への圧力を強める度に、次はカザフスタンも対象になるのでは？という見解もたびたび登場するが、カザフスタンの国家元首、ナザルバエフ前大統領もトカエフ現大統領も多極的な外交を展開する中で、ロシアへの配慮を欠かさず、両国関係が悪化したことはほぼない。最近では、2022年1月にカザフスタン国内で騒乱が起きた際、トカエフがロシア主導の集団安全保障条約機構(CSTO)に支援を要請し、事態を鎮静化させた。そうした恩もあってか、ウクライナ侵攻後、ロシアが国際社会で孤立を深める中でも、カザフスタンは緊密な関係を維持している国の1つとなっている。

しかし、その一方で、トカエフ大統領は全面的に侵攻を支持しているわけではなく、ロシアと一定の距離をとっているようにも見える。この状況を受けて、日本を含む西側メディアからはロシアとカザフスタンの関係が悪化しているとの報道も散見される。しかし、現地専門家の見方では、ロシアとカザフスタンは相互連携を維持しているという。その根拠はどこにあるのだろうか。以下では現地専門家の見解に基づくウクライナ侵攻後のロシアとカザフスタンの関係の見方について紹介する。